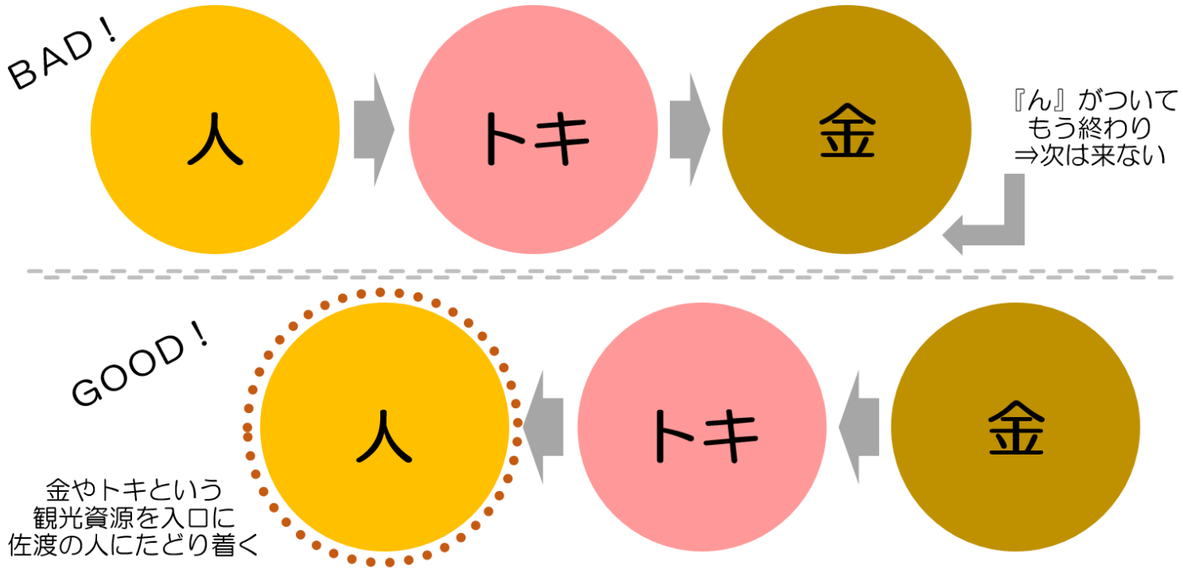
▼③平成30年12月定例会　一般質問資料

▼ヒト⇒トキ⇒キン：しりとりによる佐渡らしさの伝え方

3

◆人に逢う観光 ≒ 観光地域づくり
大正大学地域創生学部の学生の地域実習で、学生と意見交換をする機会を得た。佐渡の地域資源は、色々あるけれど、人やトキや金山ではないか。気付いたことは、しりとりで佐渡らしさを伝えることができる。しかし、ヒト⇒トキ⇒キンと続くと、しりとりは終わってしまう。観光地域づくりの中で逆の流れをつくることができれば、リピーターの増加、関係人口の創出、ひいては観光振興になるのではないかという考えにたどり着いた。



▼①平成30年12月定例会　一般質問資料

▼ＳＤＧｓの取り組み⇒SaDoGｓ(佐渡ジーズ)へ

1

◆ＳＤＧｓとは・・・
持続可能な開発目標のことで、Sustainable Development Goalsの略。2015年に国連本部で日本を含む193の加盟国の合意の下で採択された「世界を変革するための17の目標と169のターゲット」のこと。持続可能性を地球規模で考えた時に、非常に重要な目標であり、一部民間企業や日本青年会議所等も力をいれてＳＤＧｓの実現に取り組もうとしている状況にある。

SDGs
sadogashima

【出典】【１分で分かる】世界を変革するための１７の目標「SDGs」

◆佐渡市の取り組み・・・
トキとの共生を目指す環境共生型農業をはじめとする生物多様性の推進、レジ袋の有料化、消費者協会が取り組む３０１０運動、クールビズやゴーヤカーテンをはじめとするクールチョイスなど、既に佐渡市として取り組んでいるＳＤＧｓはたくさんある。
⇒まずは情報の整理、佐渡市将来ビジョンへの掲載をするべき！

▼④平成31年3月作成　参考資料

▼室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会 とは・・・

4

室岡ひろし　プロフィール
- 昭和55年 新潟市生まれ（本籍:上横山 甚太郎）
- 平成11年 新潟高等学校卒業（第107回生）
- 平成17年 東京理科大学理工学部建築学科卒業
- 平成19年 同大学院修士課程修了（建築学修士） 東京のITベンチャー企業へ就職
- 平成23年 コールセンター(HCC株式会社)へ転籍 東京にあったコールセンターを佐渡へ本社誘致、孫ターンに成功！（秋津の佐渡本社センター責任者に就任）

室岡ひろしと
佐渡の明るい未来をつくる会
〒952-0024 佐渡市上横山273
☎090-9335-9519
室岡ひろし

『佐渡アイランド集落ツーリズム』構想

の実現を目指す政治団体です。

佐渡の農山漁村の生業を大切にし、
集落でかけがえのない時を過ごす
人と人とがつながっていく世界観

不定期での意見交換会『茶話会（さわかい）』を開催させていただいております。
いつも貴重なご意見・ご質問・ご提案をいただき、本当にありがとうございます！

皆さんのお困りごとやご意見が佐渡市政の改善のタネとなります。
一人でも多くの佐渡市民の方との意見交換に伺いたいと思います！
茶話会開催のご希望があれば、是非ともお声掛けください◎
平日土日、昼夜問いませんので、どうぞよろしくお願いいたします。

【連絡先】室岡ひろしと佐渡の明るい未来をつくる会
発行責任者　室岡啓史：090-9335-9519
mro1118@gmail.com
http://hiroshimurooka.com/

後援会員募集中!!!

▼②平成30年6月定例会　一般質問資料

▼RMO（地域運営組織）〇〇小学校区応援団（仮称）

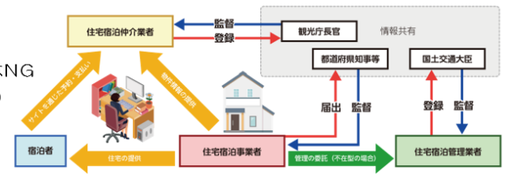
2

◆『小学校区』というコミュニティを大切に
佐渡の集落での活動を永続的に残すことができないかと考えます。
そこで、RMO（地域運営組織）〇〇小学校区応援団（仮称）を結成し、
下記6点に取り組む提案です。※団体は、ＮＰＯや一般社団法人等を想定

①集落毎の字会計や各種行事案内資料の統一フォーマット化、データ化
【A】小学校区内の数集落の字会計（※集落情報は、集落毎で厳重に要管理）
【B】ムラ歩き事業会計（集落の魅力を発掘し、ムラ歩きガイドを行う等）
【C】簡易宿所事業会計（古民家を再生し、宿泊施設に活用する等）

②ムラ歩き事業⇒【B】
佐渡アイランド集落ツーリズム構想実現のため、さどんぽ/あるかんか佐渡/ふれあいガイド等の取り組みを各小学校区でも行う。また、体験コンテンツを発掘し、集落の魅力を体験できるようにする。

③簡易宿所事業⇒【C】
空き家利活用、古民家再生、宿泊を伴う滞在型観光を推進する。
※簡易宿所は、食材提供やケータリング（仕出し）はOK、その場で作られたお料理提供はNG
※住宅宿泊事業法（平成29年6月に成立した民泊新法）年間提供日数の上限は180日（泊）



【出典】minpaku民泊制度ポータルサイト

④各地郷土博物館の利活用
郷土博物館機能に加え、RMO事務局の拠点としても活用する。

⑤集落産のお土産の開発・製造・販売
島内外の好事例を参考にお土産を開発して、民間企業推進の元で製造・販売する。※販売は、②～④等で行う。

⑥〇〇小学校をコミュニティスクールとして、地域と連携
学校運営協議会制度を導入し、総合学習（学校教育）＆生涯学習（社会教育）に取り組む。

平成三十年度
三月発行
第三号

佐渡市議会議員 政風会 幹事長 室岡ひろし

▼①平成30年3月定例会　一般質問要旨

一般質問 ①自助②共助③公助の優先順位を大切に

室岡 啓史 議員

質問 佐渡の農山漁村の生業を大切にし、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とがつながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現を目指す。7．24水害と半年後の1．24寒波の経験により治山治水の大切さ、難しさを再認識した1年であった。災害等の有事の際における自助・共助・公助のあり方について問う。

市長 激甚災害となった50年に一度の豪雨による総被害額は60億円を超える規模で、国県と連携しながら早期の復旧を目指す。また漏水修理の受付件数は、47 18件であった。再発防止に向けて、凍結への注意喚起をチラシ、緊急防災無線等により行い、生活弱者へは自主防災組織や集落長等と連携を図れるよう、検討を続けていく。災害発生時には地域住民が自発的に活動することが自らの生命を守る上で極めて重要なので、市としても自主防災組織への支援や地域防災リーダーの育成を今後も行っていきたい。また、災害に強い安全・安心のまちづくりを推進する上で、災害情報の収集及び伝達をスムーズに行う体制の整備や要配慮者への安全確保の体制の整備、関係機関との協力体制の構築などは行政が主体的に推進していく必要があると考えている。なお、湧水位置図や災害時等の非常時における湧水等利用の留意点について、広報などでの周知を予定している。

質問 新しい佐渡市奨学金制度のあり方について問う。

市長 佐渡市奨学金条例の改正に当たっては、ひとまわり大きく成長した若者が一人でも多く佐渡にUターンして就業し、結婚、そして子育てと将来にわたり佐渡の活性化に寄与していただくことを最大の目的に制度設計させていただいた。

質問 地域づくりのあり方について部の枠をも超えた『果敢に課間連携』という考え方が必要と考えるが。

市長 地域が大きな活力を保つ上で、高齢者が長年培ってきた知識、経験などを生かして社会参画をしていただくことが非常に重要。高齢者の社会参画に向け、努力を続ける。課と課の連携をこれまでになかった部分まで踏み込んだ意見交換等が行えるように部制を導入した。部を超えた連携についても当然必要であると考えている。

▼②平成30年6月定例会　一般質問要旨

一般質問 食と旅行商品とエネルギーの地産地消推進を

室岡 啓史 議員

質問 佐渡の農山漁村の生業を大切にし、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とがつながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現を目指す。食と旅行商品とエネルギーの地産地消推進について問う。平成26年の島内総生産額が約3400億円、そして年間約1000億円ものお金が島外へと流れ出ているのが現状である。そこで、①食②旅行商品③エネルギーの地産率を上げ、それぞれ100億円ずつ年間合計300億円規模の島外流出を防げば、島内で年間450億円規模（佐渡市の当初予算額並み）の経済波及効果が見込めると思うがどうか。

市長 食については、佐渡産農林水産物の使用を増やすことで経済の島内循環を高めていきたい。旅行商品については、観光業を総合的な産業と考えることができ、入込み客数を増加させるか、1人当たりの消費額を増加することが重要な課題である。エネルギーについては、太陽光だけでなく、佐渡のものを最大限に活用し、自前のエネルギーをつくり出す努力は絶対必要だ。

質問 食と旅行商品とエネルギーの地産地消を重ね合わせると『佐渡エコアイランド集落ツーリズム』が実現できる。レンタカー等の電気自動車（EV）で佐渡を巡り、集落の人に会う旅。宿に駐車している間に自然エネルギーで充電し、港へと戻るエコな旅を提案するがどうか。

観光振興課長 エコな島ということが前面に出ることは島のイメージづくりにもつながることから有効だと考える。

質問 県内自治体との連携について問う。

『佐渡は越後のはなれ』という観光戦略を打ち、新潟県、新潟市、長岡市、上越市等の佐渡汽船就航地との自治体連携をより強化し、佐渡観光交流機構の専門性も活用しながら、まずは新潟県内に対して強い連携体制を構築すべきと考えるがどうか。

市長 観光振興は佐渡の経済の活性化において大きなウエートを占めており、人口減少対策としても基本目標の一つに掲げている。これからも新潟県や新潟市、長岡市、上越市をはじめ、県内外の自治体と連携した取り組みを進めたい。

討議資料

三度のメシより佐渡が好き!!!

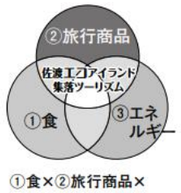
Vol.003

▼③平成30年9月定例会　一般質問要旨

一般質問 ①汗②知恵③金を出すの優先順位を大切に

室岡 啓史 議員

質問 佐渡の農山漁村の生業を大切にし、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とがつながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現を私は目指している。松下幸之助の『まず汗を出せ、汗の中から知恵を出せ、それが出来ない者は去れ』、また、エジソンの『天才は1％のひらめきと99％の汗である』の言葉の通り、まずは汗を出す。次に知恵を出す。最後に金を出す。イコール予算をつける。という優先順位を大切にするべきと考えるがどうか。



①食×②旅行商品×③エネルギー＝『佐渡エコアイランド集落ツーリズム』

市長 市職員は汗を出し、知恵を絞り、事業化に結びつけるというプロセスが重要であると考えている。

質問 両津夷＝昭和レトロ、両津湊＝江戸レトロの街並みとしてハードとソフト両面から整備して、船待ちの1時間をも楽しめる観光地域づくりを推進すべきと考えるがどうか。

市長 両津地区については佐渡の玄関口という視点が欠かせないと考える。

伊藤副市長 欠航の際、観光客は両津で過ごす傾向が大変強く出ている。町並みを整備して観光に活用し、まち歩きをするということは、玄関口ならではの使い方であり大変素晴らしい発想だと思う。

質問 農業と発電事業を同時に行うことにより、食とエネルギーを地産地消する古民家再生の宿や民泊事業者などに※V2Hを導入し、観光からモデルケースとして始めることで、市民へ波及することができるのではないかと考えるがどうか。

市長 V2Hの普及促進に向けて、宿泊施設等における国の補助制度を活用したモデル事業なども含め、調査研究を続けて参りたい。

質問 佐渡市まち・ひと・しごと創生総合戦略について、平成27から31年度までの5年間の現状での振り返りについて問う。

市長 安定した雇用の創出、観光、交流の促進、島全体での若者応援、島の安全、安心の確保を基本目標として掲げ、取り組んでいる。今後も引き続き雇用の創出や移住、定住等の施策を進めて参りたい。

※V2H＝電気自動車等に蓄えた電気を家で使う等の仕組み

▼④平成30年12月定例会　一般質問要旨

一般質問 持続可能な環境の島づくりへ向けて

室岡 啓史 議員

質問 佐渡の農山漁村の生業を大切にし、集落でかけがえのない時を過ごす人と人とがつながっていく世界観、『佐渡アイランド集落ツーリズム構想』の実現を私は目指している。集落の防災・減災対策をどう考えるか。

市長 現在、ハザードマップ改訂作業を行っている。来年度、集落長や地域防災リーダーに地域の危険箇所や避難場所などの説明会を行い、地域の防災力を高めたい。また、事前対応型の治山治水事業について、重要水防箇所の早期改修に重点を置いて要望を続ける。

質問 行政視察で秋田県大館市立城西小学校の校長よりお話を伺った。ふるさと教育とキャリア教育とを融合させて、『ふるさとキャリア教育』として地域と学校とが連携。コミュニティースクールからスクールコミュニティーへのシフトが起こっているとのこと。佐渡市はどう考えるか。

教育長 学校と地域の連携が進めば地域や保護者の活動を融合させることが可能となり、学校と地域の双方にとって有益な取り組みが広がるものと期待する。

質問 高齢者が元気に輝き続けるムラづくりについて、現両津病院跡地および旧両尾小学校の利活用をすべきと考えるがどうか。

市長 現両津病院跡地利用については今後検討したい。旧両尾小学校については、両津地区の介護予防活動の拠点とするべく、現在は太鼓を中心とした介護予防教室、世代間交流事業などを実施中である。

質問 環境省の一部を佐渡へ誘致と考えるがどうか。

市長 地方創生の視点として好循環につながることから、佐渡市としても経済波及効果などのメリットが想定されるため、今後の国の動向を注視していきたい。

質問 持続可能な開発目標『SDGs』の取り組みについて『SaDo（佐渡）Gs』と捉えてはどうか。

市長 行政・企業・市民など全ての関係者が統合的に取り組むべきものであり、佐渡市将来ビジョンなどに反映させていきたい。

質問 佐渡市当初予算451億円を世帯年収451万円に例えて、市民の皆さまに佐渡市政へ興味を持っていただくべきと考えるが。

市長 市の財政状況をご理解いただけるよう、市報さど12月号では市の財政状況の説明を掲載する。